



学校だより

# ながや

令和5年 6月27日  
横浜市立永谷小学校  
校長 神田 敏之

## 一挨一拶（いちあいっさつ）

副校長 菅原 明子

1年生の下校時のことです。2階の職員室まで、かわいらしい声が響いてきました。

「あしたー！元気に学校に来てねえー！」

「うーん！」

「かならず来てねー。待ってるよー。」

「わかったー。じゃあねー。」

窓から下校の様子を見ると、正門から帰る子とプール側から帰る子が、手を振りながら別れて帰るところでした。この二人の関係性が伝わってくる心のこもった挨拶に、思わずこちらまで心がほっこりしました。同時に挨拶は、人とつながりながらよりよく生きていくためのものであることを改めて感じさせられました。

挨拶の語源である「一挨一拶（いちあいっさつ）」は、問答を交わして相手の悟りの深さを試みることだそうです。日常ではあまり使わない文字ですが、「挨」は押す、「拶」は迫るという意味があり、互いに近づき、相手の心の内を推し量ること。つまり、挨拶とは、自分の心を開いて相手の心に近づくことともいえます。そこで、ふと、「どうしたの？」という言葉も挨拶といえるのかもしれないと思に至りました。

20年以上も前のことです。花壇の中にある二宮金次郎の銅像の上に何人もの子どもが登って遊んでいる場面を見かけました。「あぶない！降りなさい！」と言いかけたのですが、「どうしたの？」と聞いてみました。すると、子どもたちが一斉に「先生！こっち来て！」「先生、この人が読んでいる本に何か書いてあるんだよ。何て書いてあるのか教えて！」と銅像の上から手招きをするのです。子どもの目線を辿ると、そこには「勤勉努力」という大きな文字がありました。この時の子どもたちとの関わりは、子どもは子どもの世界で生きているということを教えられた経験となりました。もちろん、安全面での指導もその後に行いましたが、頭ごなしに叱っていたら、共有することができなかつた豊かな時間でした。

「どうしたの？」は、魔法の言葉ともいえます。これまでも子どもを叱らなければならない場面でも、まずこの言葉を使うことで、よりよい方向へ向かうことが多々ありました。また、相手が楽しそうな様子のおきには楽しいことについて、困っている様子のおきにはその困り感についての返答があり、そこから相手との対話が始まります。永谷小の子どもたちともたくさん言葉を交わし、こちらが元気づけられたり教えられたりしている日々です。

永谷小に通う子どもたちにとって、日々の「挨拶」が、人とつながりながらよりよく生きる力となるよう願ってやみません。